

# 小学校 第3学年 音楽科 学習指導案

神奈川県横浜市立桜岡小学校  
教諭 千葉 瑞子

**題材名** こんにちは リコーダー (3時間)

**題材のねらい**

- リコーダーの音色と演奏の仕方との関わりに気付くとともに、音色や響きに気を付け、互いの音や伴奏を聴いて音を合わせて演奏する技能を身に付ける。
- 曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得たり、リコーダーの演奏のよさを見いだして聴いたりする。
- リコーダーで様々な表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、リコーダーに親しむ。

**本時のねらい**

リコーダーの音色に気を付けて演奏を聴き、息の強さや指使いに気を付けてシの音を演奏する。(第2時)

**指導時期**

6月

## 指導者用デジタル教材活用の意図・目的

リコーダーの導入時、子どもたちは憧れと希望をもって新しい楽器に向かっていて、高ぶっている気持ちを「リコーダーの音ってきれい」「リコーダーを吹くのは楽しいな」とリコーダーを好きになるきっかけにつなげたい。リコーダーの美しい音を美しいと感じるためには、教師が生演奏するのが一番よいと思っているが、教師にも得手不得手がある。また、児童の演奏技能にも差がつきやすい。基礎に戻って学びたい児童もいれば、範奏を聴いてどんどん演奏したい児童もいる。そこで指導者用デジタル教材や、まなびリンクを活用すれば、一人一人の学びのペースやニーズに合わせることができ、おのずと演奏の技能やリコーダーへの興味関心が高まっていくであろう。

## 本時(第2時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
	第1時でリコーダーの扱いに十分に慣れ、リコーダーへの興味を高めておく。また、自由に音を出したり触ったりできる時間を設けることで、子どもなりにリコーダーのよさを感じ取ることができるようにしておく。	
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> <li>● 「目次を開く」から「リコーダーは歌う」のページを表示する。</li> </ul>	 <p>The screenshot shows the 'Teacher Use' (指導者用) interface of the digital textbook. It features a colorful illustration of children playing recorders. On the right side, there are three blue buttons: '開く 最初のページを開く' (Open initial page), '開く 目次を開く' (Open table of contents), and '開く 前回の続きを開く' (Open previous page). There is also a close button (X) and an 'おわる' (End) button. At the bottom, it shows the publisher's name '教育出版' and the ISBN '97845021158103'.</p>

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リコーダーの音色の特徴や曲のよさ、おもしろさを感じ取って聴く。</li> <li>● リコーダーの歴史を知り、興味をもってリコーダーを演奏しようとする。</li> </ul> <p><b>T</b>：今から、リコーダーの曲を聴きます。何の生き物を表しているのか想像しながら聴いてください。 (耳をすませて聴く)</p> <p>◎：すごく高い音だったね。 ◎：とても速い音が続いていたね。 ◎：でも、短い曲だったよ。 ◎：鳥の鳴き声みたいだね。</p> <p><b>T</b>：そうですね、鳥の鳴き声を表している、リコーダーの曲でした。 <b>T</b>：リコーダーは小鳥に歌を教えるための楽器だった、と前回学習しましたね。 ◎：すごいね、リコーダーであんな音が出せるんだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 『うそどり』『森ひばり』の音源を再生し、リコーダーの音色やその特徴を感じ取って聴く。</li> <li>● リコーダーの音色に気をつけて聴くことができるように、モニター画面や動画などは見せずに、音源だけ聴かせる。</li> <li>● 気づいたことは言葉で共有できるようにする。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書紙面をモニターに写し、タイトルや鳥の写真を見せる。</li> <li>● タイトルの横に音声アイコンがついているので、タイトルを拡大しながらもう一度鑑賞することも考えられる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指導用DVDを視聴し、演奏の様子を確かめながら聴く。</li> </ul> <p><b>T</b>：それでは演奏している様子を見てみましょう。</p> <p>◎：指があんなに速く動くなんて、すごいね。 ◎：リコーダーがしゃべっているように聴こえるね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正しい演奏の仕方を身につけ、リコーダーを演奏する。</li> </ul> <p><b>T</b>：それでは、みなさんもリコーダーを演奏してみましよう。</p> <p><b>T</b>：正しい演奏の仕方を覚えるために、動画を見てください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● まなびリンクの動画に合わせて、リコーダーを構えたり、演奏したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全曲鑑賞する時間がなければ『小鳥のために』だけ視聴してもよい。音の重なりを感じさせたいのであれば『いつも何度でも』を視聴するなど、児童の実態に合わせて選曲する。</li> <li>● まなびリンクの動画には、構え方・息の強さ・タンギングなど、基本の演奏の仕方の詳細が詰まっている。必要な場面だけを再生したり、繰り返し再生したり、さまざまな活用が考えられる。</li> </ul> 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正しい演奏の仕方や、正しい音色、息の吸い方などを動画を見て学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブレスの仕方や指づかいなど、動画から得られる情報もある。教師が適宜補って指導するとよい。</li> </ul> 
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●演奏の仕方に気をつけ、シの音を演奏する。  <b>T</b>：今、動画で演奏していた音はシの音です。指使いを確認しましょう。  <b>T</b>：リコーダーの構え方に気をつけて、シの音を演奏してみましょう。</li> <li>●教師の手本や教科書紙面などから、正しい演奏の仕方を身につけ、シの音を演奏する。</li> <li>●一人で演奏したり、友だちと合わせて演奏したり、全体で合わせたり、何度も演奏して音色をコントロールできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●初めは、息の強さや構え方などコントロールが難しいので、何度も音を出してリコーダーの音に親しむようにする。</li> </ul> 

## 指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

リコーダーの導入時に指導しているのは、誰なのか。音楽が得意な担任なのか、リコーダーの演奏が苦手な担任なのか、専門的な知識・技能がある音楽専科なのか。教師の演奏する音に大きく影響されるリコーダーの導入は、教える側にも負担であったに違いない。それを指導者用デジタル教材やまなびリンクを上手に活用することで、誰もが教えることができる。子どもにとっても、正しい演奏の仕方やリコーダー本来の音色を聴きながら学ぶことができるツールとなった。また、本授業では指導用 DVD も合わせて活用している。演奏の様子を視聴することは、耳で捉えた音楽が可視化され、心の中で感じ取っていたことが事実となり大きな感動へとつながる。聴く力を育てるためにも、演奏の様子を視聴することは効果的であると考えます。

本授業でも、まず音源だけでリコーダーの曲を聴いた後で演奏の様子を視聴している。初めて出会うリコーダーの曲への「こんなに速いパッセージをリコーダーで演奏できるなんて」という驚きが、演奏の様子を視聴することによって「演奏すると指がこうやって動くんだ」「息をこんなに深く吸っていたのか」「意外と全身を使って演奏するんだな」といった発見につながっている。見聞きして覚えたことは、実践したくなるものである。憧れをもってリコーダーを握りしめ「早く演奏したい」という意欲になる。

ただ、いくらプロの演奏であっても、目の前の楽器の、生の音にはかなわない。教師も臆することなく、子どもたちと一緒に演奏し、息づかいを感じられるような指導としたい。